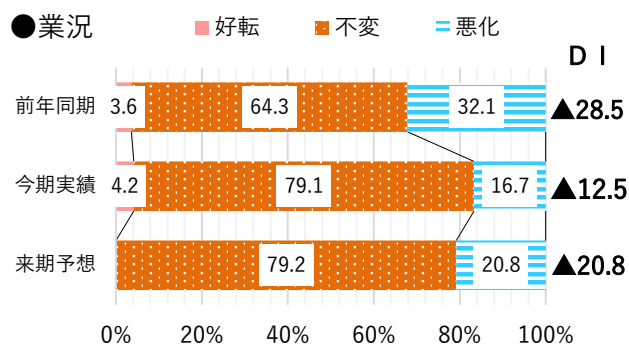


# 建設業

## 業況、売上、採算

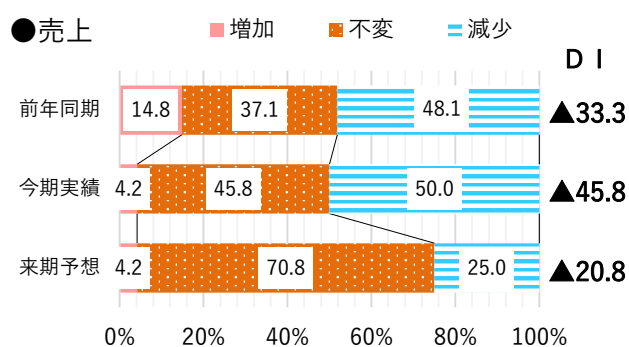
今期（2021.4～6）の業況判断DIは▲12.5で、前年同期(2020.4～6)と比べ16.0ポイント上昇しました。

来期（2021.7～9）は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



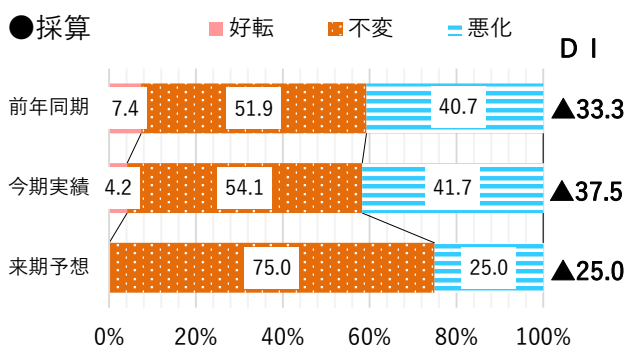
今期の売上高DIは▲45.8で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

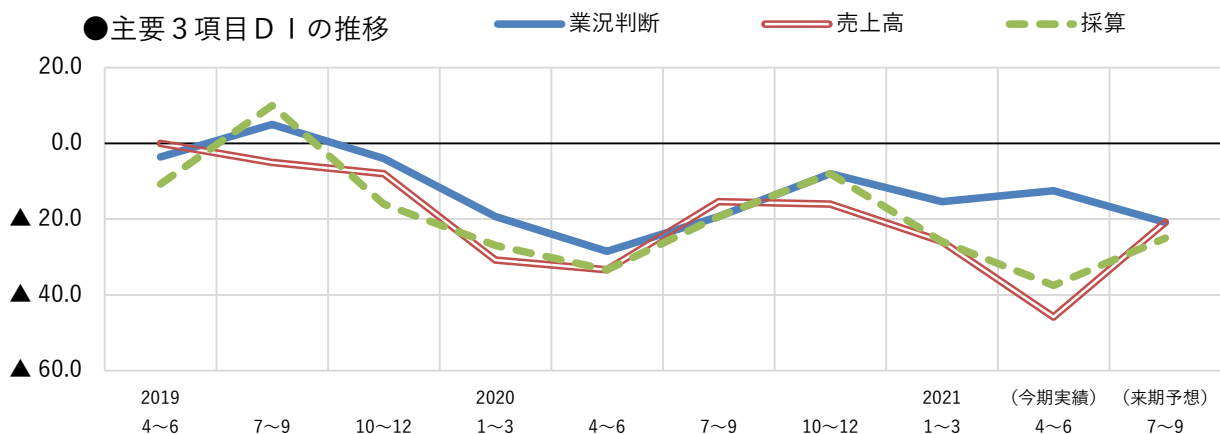


今期の採算DIは▲37.5で、前年同期と比べ4.2ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



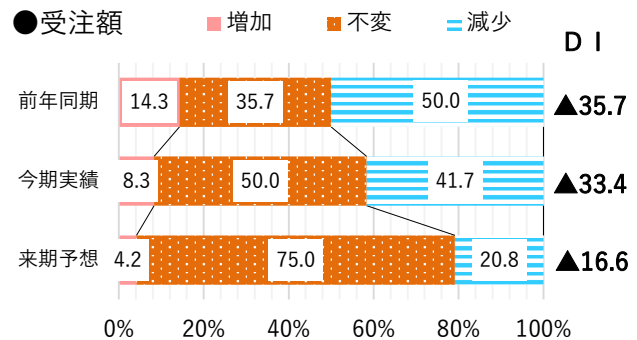
### ●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

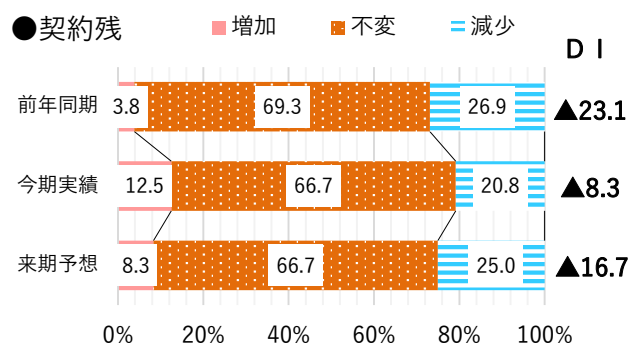
今期の受注額DIは▲33.4で、前年同期と比べ2.3ポイント上昇しました。

来期は、受注額の減少傾向が弱まると予想しています。



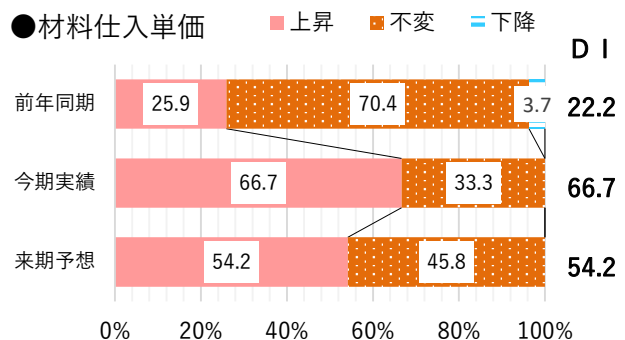
今期の契約残DIは▲8.3で、前年同期と比べ14.8ポイント上昇しました。

来期は、契約残の減少傾向が強まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは66.7で、前年同期と比べ44.5ポイントと大幅に上昇しました。

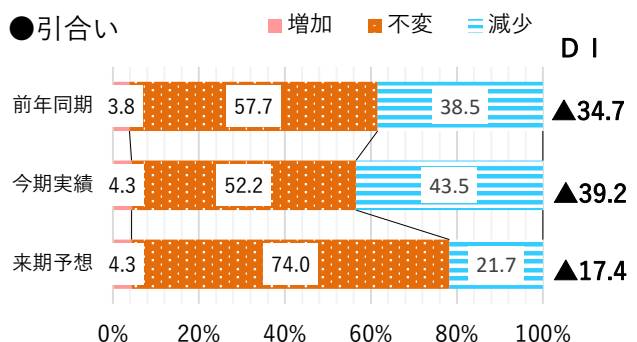
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲39.2で、前年同期と比べ4.5ポイント低下しました。

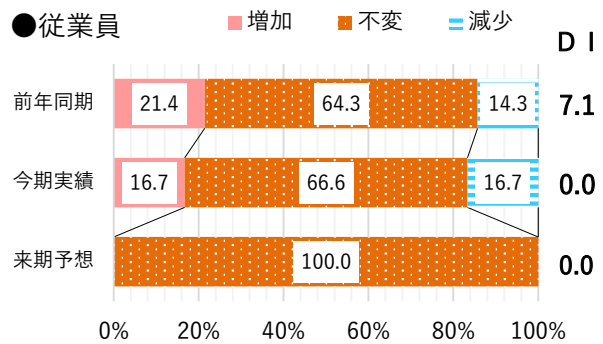
来期は、引合いの減少傾向が弱まると予想しています。



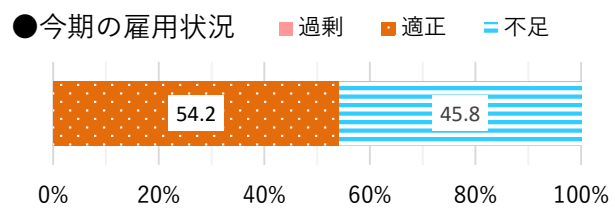
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ7.1ポイント低下しました。

来期は、従業員数に変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は54.2%、不足していると回答した企業の割合は45.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、建設業全体の33.3%を占めています。

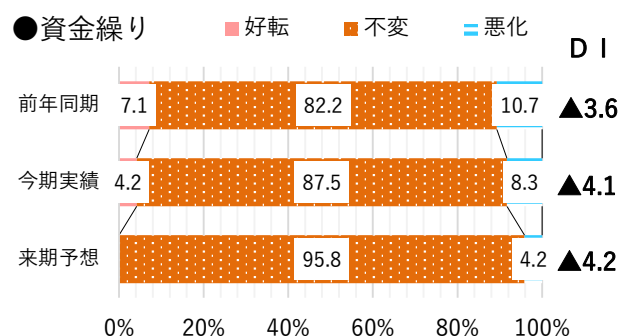
従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」という回答でした。

資金繰り、設備投資

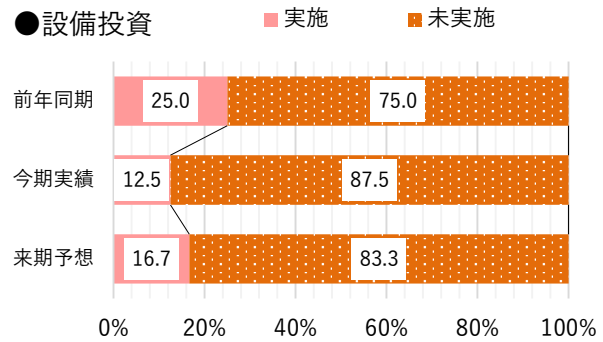
今期の資金繰りDIは▲4.1で、前年同期と比べ0.5ポイント低下しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



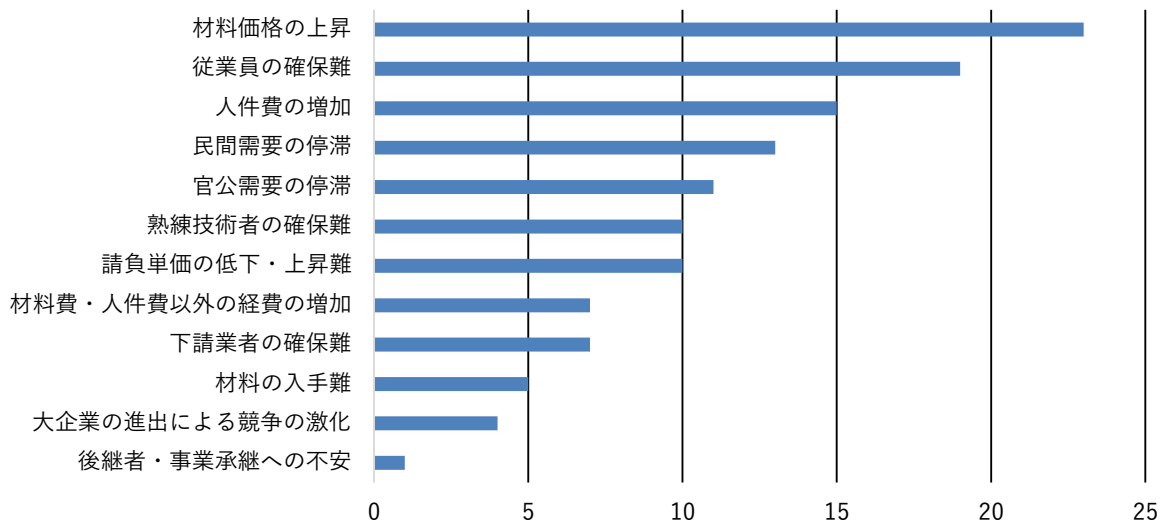
設備投資を実施した企業の割合は12.5%で、前年同期と比べ12.5%低下しました。投資内容は、1位が「土地」、2位が「建物」、「OA機器」、「その他」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は16.7%で、増加を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 材料価格が上昇した。（一般土木工事業）
- 受注のペースが例年より鈍く、引合いは前年同期比6割の状況にある。今のところ、仕入単価の上昇分を工事請負額に転嫁できているが、今後もこのまま推移するとは思えない。（一般管工事業）
- 材料価格と運賃が上昇した。（職別工事業）
- 従業員数が増加し、業況は好転した。（電気工事業）
- 新型コロナウイルスの影響は大きくないが、人材確保難のため、受注件数が減少した。（設備工事業）
- 公共工事の件数は例年と同程度だったが、民間工事の件数は減少した。（造園業）
- 売上の増減が激しかった。（造園業）

[来期の業況について]

- 引合いが好転する兆しはない。（一般管工事業）
- 型枠用の木材の仕入が困難になると思われる。（職別工事業）
- 手持工事が多く、今期と同様と思われる。（電気工事業）
- 今期と同様に人材確保難が予想される。（設備工事業）
- 新型コロナウイルスによる売上の減少を見込む。（造園業）
- 新型コロナウイルスのため、予想は難しい。（造園業）